
ワンピース 天狐

人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンピース 天狐

【Zコード】

Z2002Y

【作者名】

人

【あらすじ】

神（仮）に転生させられ天狐の力をでにいれた人の話です。ここ
の天狐はほぼ自分のオリジナルです。自分はワンピースをあまり知
りません。

処女ですが、よろしくお願いします。

はじめまして、自分の名前は斎藤 たつきです。

いきなりですが、なんか死んだみたいですね。（笑）

そこ！そんな可哀想な人を見る目で見るな！だつてさ、周り真っ暗なんだもん！あれだよ、ぎん まの洞爺湖の仙人の出できた世界だよ。ベットとかあるしね。

何て考えていたら何か光が来た。

（やつと起きた。お前死ぬはずじやないのに死んだから転生させる。異論は認めない！まあがんば！）

え、何これ。なんで穴が空いてるの？待つて。誰か説明くれえええええええ！

さて、何か起きたら森だつた。

いやいやいや。ないないない、だつてあれだもん俺死んだもん。
光がきて落とされたけどいくらたんでもこれはない。そうだ！ない
！これは夢だ！そうとなれば寝よ。

ん？なんか紙がある。なになに。

『よ、ちゃんと本文読んでるか？まあいい。とにかく用件だけ箇条書きでかけてくぞ。

・お前もしつてのとうりお前は死んだ。赤ん坊に押され津車に轢か

・そこはONE PIECE の無人島の一つだ。いちよつ紙の近くに悪魔の実をぶら下さった。

・そこは結構危険な生き物もいるから気を付けなよ？・身体能力は鍛えればその世界最強クラスになるから。

じや最後に運命かつてにこわしてごめんね（笑）

じゃ いちよつ悪魔の実でも食べますか。

どうあえず能力の確認と体術や体きたえた
ます。おもししいやうな。」「

そういうて森のなかに斎藤は姿を消した。シッポがあることに気づかず、に。

「どうも、たつきです。 あれから五年たち、能力、体術ともにだいぶましになりました。（ちなみに今の歳はたぶん16歳です。）

悪魔の実の能力は動物系イヌイヌの実モデル天狐でした。これすごいんですよ！ まず人の姿のときは妖術モドキがつかえ、人獣型のときは妖術+四尾+千里眼がつかえ、獣型のときは妖術+四尾+千里眼+七色に輝く体毛（一本一本が鋼鉄のように固く、霸氣も纏える。）+神通力。

あれ？ 最強クラスじゃない？ この小説のキーワードの弱チート早くも崩れてない？（メタ反対いいいいいい！ b y 作者）今は体毛に霸氣（霸王色は持つてないです。）を纏い、それを飛ばせないかなあと考えています。

ちなみ、原作にはちょくちょく介入しようつとっています。 にしても暇だなあ。何か来ないかな。この島の獣全て手なしけたからなあ。海賊とかきたら面白いのにな。まあザ「限定だけ。バギー並の奴がきてほしいな！ まったく、本当に最近喋つてないから声がでなくなりそう。

s i d e 海賊

「そーあんな怪物海軍相手に出来るか！

「おい！ お前らー！ とにかく近くにある島までにげりぞ。そこで水と食料を手に入れ、また逃げるぞ！」

「そーくそーこんなはずじゃなかつたのにー！ ただいつも道理町を襲つただけなのに。まさか中将がいるなんてー！」

「島だぞー！」

やつと見つけたか。

「よおおし。上陸だー! さつさと水と食料とつれてー。」

卑くしないとおいつかれててしまう！

Side????中将

やあやあ、わしはガープじや。
さつさよつた町で海賊が襲つてきたから反撃したらあつた
りにげあつた。

おー、たぐ歯応えかないのよ。あんなもんでも懸賞金5000万ベリーだなんてのよ。

こんにちは！たつきです！

だいめんじゅうとなりなっています。

その二が貴様の言つていた済済者力ナリ

回憶

說文解字 卷之二

「……は、ちんたらするな！」

お！誰か来た！わいわいと誰かに会おう。

side 海賊

今はまだ海軍はみえねな。今内に作業するか。

「なんだ変なやつって！ もうと詳しく述べ！」

それが しきなりガキが森から出てきて 口をノグハグし

卷之三

無駄な時間取らせやがつて。

「どうでもいい。殺せ。そんなことより早く作業しろ！」

side たつき

見つけたあああああ！

一才
」

カニヤニヤニヤニヤン

side 海賊

よし！水と食料は積んだな。さああと出航だ！

「可だ！ 可があつた

何だ！あの狐は

卷之三

「ぐそ！全員あれに一発射撃た。その内に出航するぞ！」

死にたくない！

side たつき

いちよう力試しの為に獸型になつたけど……弱つ！え？

銃でこんなにもかるいの？妖術でらぐで剣や銃は壊せるし、あたつても痛くない。つまんねええええ。

でもまだ人は殺せません。もつぱら氣絶してもひりつていま
す。

あ、何かでかいの来た。

「オイ！お前俺が『大砲』のガリクと知つてゐるのか！賞金5000万ベリーだぞ！」

いや獸にそんなこと言つても無駄しょ。しかも足ガタガタなつてるしwww返事してやりたいけど声出ないんだ。まあ氣絶してくれや。

「来るな！来るな！来るなあああああ！」

大砲打つてきたよ！ま、きかないど。ちょっと痛いだけだ。

尻尾で大砲を壊して、はい、終わりーあつけないなあ。

あれ？もう一隻来る。あれは……海軍！？

side ガープ

さてと、あのアホに愛の拳骨をくれてやらんとなー！

「中将！海岸に海賊たちが倒れています！」

なにーどういうことじや？あの島は無人島で猛獸しかいな
いはずじや。

「猛獸はあるか？」

「いえ見当たりません……いや、あれは……中将ー男が海
賊たちの近くで手を振つています。」

ふむ。漂流者かの。

「よしーあの男のところまでいくぞー。いろいろきかねばなら
ん

「 「 「 「 はつ...」 「 「 」

s.i.d.e たつき

なんか来たなあ、てあれガープじゃない?え?なんでもん
な大物がここにいるの!

「お前がこれをやつたのか?」

「ク

「なぜ声をださん?声がでないのか?」

「ク

「お前さん、漂流者か?」

「ク(俺みたいな人間は)のほうが妥当だろ)

「わしらはみてのとつう海軍じや。わしらについてくるか

?」

「ク「ク「ク

「よし!では詳しくは船のなかではなぞ「
はあやつと人の住んでる場所にいけるのか。
楽しみだな。

やつぱりこのまま海軍に入つてしまつのがいいのかね?でも人は殺
せないしなあ。まあ成り行きにまかせよ。

元々一部の海賊以外虐殺とかやつてそつだしな。よし、がん
ばつていこう!

said センゴク

ふむ、ガープの連れてきたこの少年、なかなか強いと言つがどの程度のものか。「君はいつからあの島にいるのかね？」

「五年間です」

「何故漂流者になつたか覚えているのか？」

「スミマセン。記憶がなくて」

「ふむ、

しかし あの島には猛獸がいたはず……

「あの島には猛獸がいたはずだが？」

「まだ漂流者になつたばかりの『ひる』に悪魔の実を食べたので生きることができました」

「なんの実だね？」

「イヌイヌの実モデル天狐です」

「なんと！幻獸種か！」

「そうか。そうだな……准尉から初めてもらつた。」 今、海

軍は人手不足だ。貴重な人材はしつかり育てなくては。

「ただし！お前がめんどうみるよーガープ！」

「ワハハ。まかせんかい」

「そういえば名前を聞いていなかつたな。名は何て言つんだ？」

said アウト

said たつき

「んにちは。いきなり少尉になつたたつきです。」

「まてまてまてまて。え？ いきなり？ こんなガキに？ 少尉？ なく

ね？ ま、こんなお偉いさんに意見なんてできないけどね！」

「そういえば名前を聞いていなかつたな。名は何て言つんだ？」

ミスった。どうしよう。

「グルです」

なんかまあいいだろ。

一歩の所でがんばつてい」と

「はい！」

ま、なんとか原作介入できる所にきたな。

なんて、どうでもいいことを考えていたこともあります。

今、僕は死にそうです。
一 ほれほれ、避けないと死ぬぞ。

「無茶、な、こと、言わないでください！人獣型、にも、ならず、こんなの、無理です！」

ガープ中将に拳骨流星群くらつてます。なんとか教えて貰つた六式の内の中なかで覚えた剃と円歩で何とか避けていた。

「誰もあんなの無理ですよ
「鍛えがたりないんじゃ…」
「…それこそ大佐並みじやなきや…」

「いや、難しいから……」

この人は、ガーブ中将の船で副官をやつてゐる方で、いつもサボる中将のお目付け役だ。かなり強い。が、これでも海軍本部大佐のなかでは弱いほうだという。つまり、人外がたくさんいるんだね。分かります。　「ところで貴様のようじゅつ……といったか、そ

「そうだね。タツキ君は六式も使えるようになったし、妖術の種類と六式の熟練度を上げたら、人獣型や獣型にならなくても十分憶並みの海賊とも闘えるよ。」

「 そうなんですよ。今は“狐火”（自分の周りに火を作り、それで攻撃します。妖気によつて大きさは変化可能）と幻術の類い

「えっと、タツキ・イー
うん。ぱつと思いついたけど
「タツキか……分かった。ガ

しかないし、幻術も霸氣使いにはほほきかないですね。なにか案ありませんか」

今は本部の訓練所です。中将がサボっていたので探しに来た僕と大佐が訓練されています。

「しらん！自分で考えろ」

「そうだね。空飛んだり、風や水、土を操れないかな？」

みなさん。今の答えでガープ中将の適当を分かりましたか？

にしても、空を飛ぶのは妖術の源の妖氣を足場にするか。風などは神通力じやないと無理だと島で分かつたからな。うーん。そうだ！分身作れないかな。

「決まりました。空飛ぶのと分身を作れるようになります。風などを操るのは獣型にならないて無理ですから。」

「そつかいがんばってね？それじゃあ中将書類かたづけましょうか！」

「そうだ！そのために来たんだつた！」

「逃がしませんよ！」

「離せ！」

「嫌です」

人獣型になり逃げようとしていた中将を尻尾でつかむ。

「さあ楽しい楽しい書類仕事が待つてますよ。」

「いやじやああああああああああ！」

「ああああああああああああ！」

ま、中将が悪いんだけどね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2002y/>

ワンピース 天狐

2011年11月27日12時46分発行